伊藤　正晃

20 号館 8 階　伊藤研究室

テーマ:己を知り、世界とのつながりを識る（言語・音楽を中心に）

【授業の趣旨】

4年時の卒業研究の執筆に必要なテーマ設定、先行研究の検索方法を指導し、論文の作成を指導します。本ゼミのテーマである「己を知る」ことを常に意識し、そして「世界のつながり」にあるように、自分が世の中の何に関わっているのか、どのように役に立つのかを考えていきます。さらに、音楽との関わりなどは学生と一緒に討論していきたいと考えています。伊藤の研究に関するキーワードは「音声学（音響音声学・調音音声学）、言語学、語源学（語史）、中国語、ヴェトナム語」で、それに付随するキーワードとしては「複言語主義、国歌、民族音楽、作曲学、コード学、器楽演奏、多文化共生、地域共生」を挙げます。

【授業計画】

3年次春学期はグループワークや簡単な課題を出して、発表/発信（アウトプット）する姿勢を身につけてもらいます。そのために、まずレジュメとパワーポイントの作成指導をおこないます。その取り組みを重ねながら、自分の書きたい論文のテーマを見つけていきます。秋学期では、論文のテーマを発表してもらい、それに関連するキーワードをゼミ内で議論します。テーマが固まった頃に、Word での長い文章の作成方法について指導します。

伊藤マサゼミ生では、卒業研究の対象が「オノマトペ（擬声語・擬態語）」「疑問詞」「ビートルズ」「邦ロック」「部活動（野球）」「文字解読」「ディズニー」などの言語と音楽の二本柱が主となっています。

母語でない言語に触れたとき、必ず「なぜ?」が生まれます。母語との比較をおこない、「なぜ?」を追究します。このように「言語」について取り扱います。また、外国語を身近に感じてもらえるように、ゼミ内で言語に関するカードゲームを作成します。その成果として、オープンキャンパスなどで披露していきたいと考えています。「音楽」の取り扱いについては、授業で簡単な作曲学とコード学を指導します。楽器を演奏することはありませんが、音楽がどのように社会とつながっているか/影響しているのかを追究します。その他の分野は各学生の主体性に任せ、授業では取り扱うことはしませんが、場合によってはクラスで議論をすることもあります。この他に、3つ目の柱として「活動」を推進します。地域のボランティアが中心です。

いずれにしても、「なぜ?」を明確に持ち合わせていることを望みます。とくに、卒業研究に音楽を希望する場合は、早い段階から「楽典」（音楽理論）に触れておくことを希望します。

【面談について】

☆グーグル・フォームにて面談を申し込んでください。

〇本文に、①面談希望日時、②中間論文で扱うテーマと内容、③（現段階において）卒業研究で取り扱いたいテーマ、④「専願（第一希望）/併願（迷い中）/面談のみ;集団面接の可否」の別を入力してください。

※②と③については本音を書いてください。当ゼミのテーマ（言語・音楽など）に合わせる必要はありません。

マサゼミ面談



